

京都市
母子保健に関する意識調査
【結果報告書】
（概要版）

令和元年 6 月

京都市

1 調査概要

(1) 目的

子育て中の母親の健康に対する意識や家庭での育児の状況，母子保健サービスについての意見等を把握し，今後の本市の母子保健施策等の充実に向けた基礎資料とすること。

(2) 調査設計

調査対象者：平成30年9月3日～9月28日の間に子どもはぐくみ室における乳幼児健康診査（4か月児，8か月児，1歳6か月児，3歳児）に来所した保護者

調査期間：平成30年9月3日～10月12日

調査方法：乳幼児健康診査会場でアンケート票配布・郵送回収

(3) 実施状況

	調査対象者（配布数）	有効回収数	有効回収率	
母子保健に関する意識調査	3,162件	1,327件	42.0%	
（参考）	平成25年調査	4,332件	1,725件	39.8%
	平成20年調査	3,906件	1,726件	44.2%

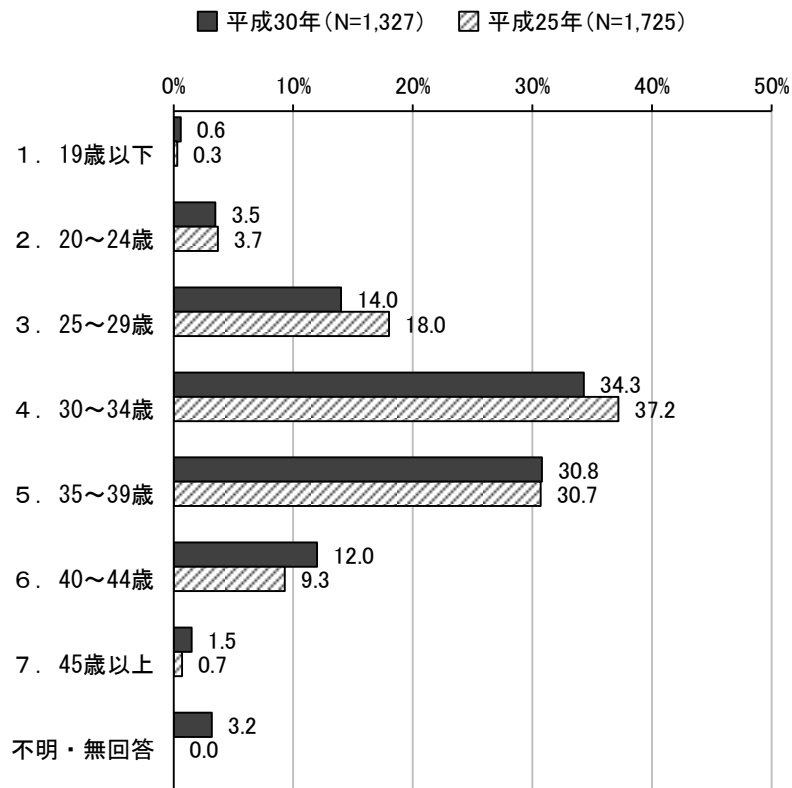
(4) 報告書の見方

- ・ 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して，それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため，単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは，本報告書内の分析文，グラフ，表においても反映しています。
- ・ 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合，回答は選択肢ごとの有効回答数に対して，それぞれの割合を示しています。そのため，合計が100.0%を超える場合があります。
- ・ 図表中において「不明・無回答」とあるものは，回答が示されていない，又は回答の判別が困難なものです。
- ・ 図表中の「N（number of case）」は，集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ・ 本文中の設問の選択肢について，長い文は簡略化している場合があります。
- ・ 設問によっては，結果を詳細に分析するため，クロス集計表を掲載しています。

2 主な調査結果

(1) 回答者について

ア 年齢（問1）

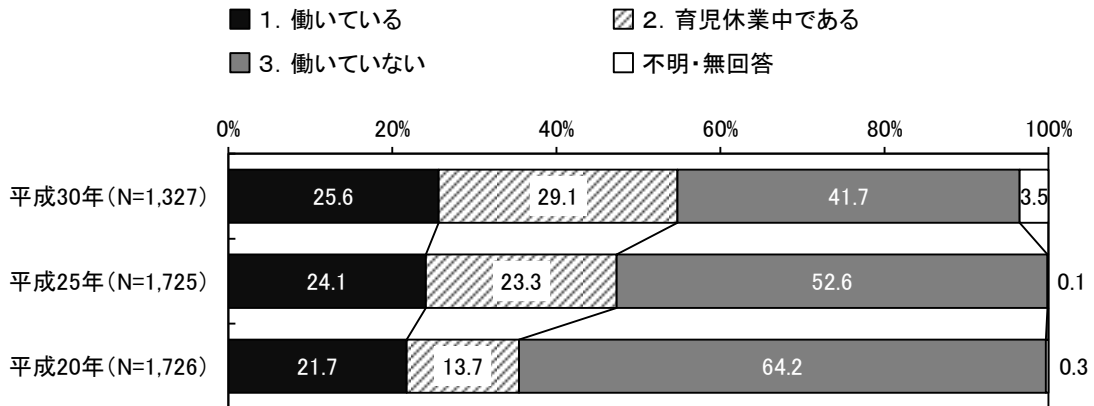


イ 就労状況及び就労形態

就労状況（問4(1)）では、「働いていない」が4割程度と最も高く、次いで「育児休業中である」が約3割となっています。

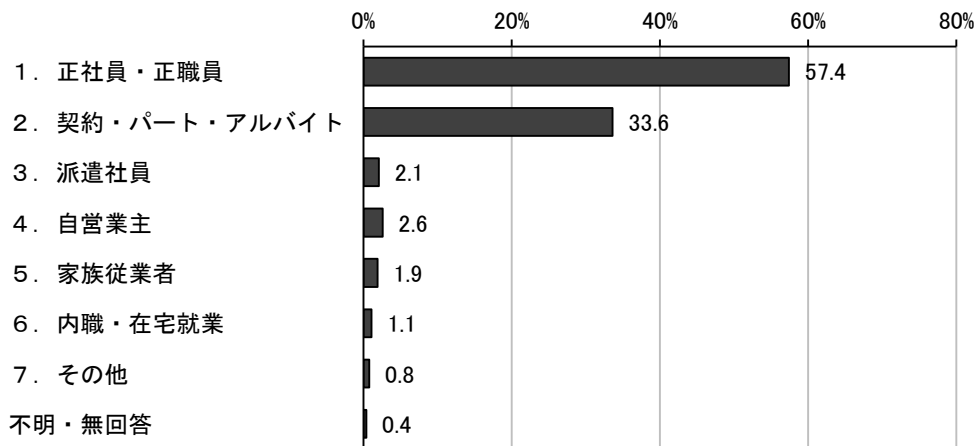
「働いている」と回答した方（問4(2)）では、「正社員・正職員」が最も高く、次いで「契約・パート・アルバイト」の順で多く挙げられています。

【就労状況】



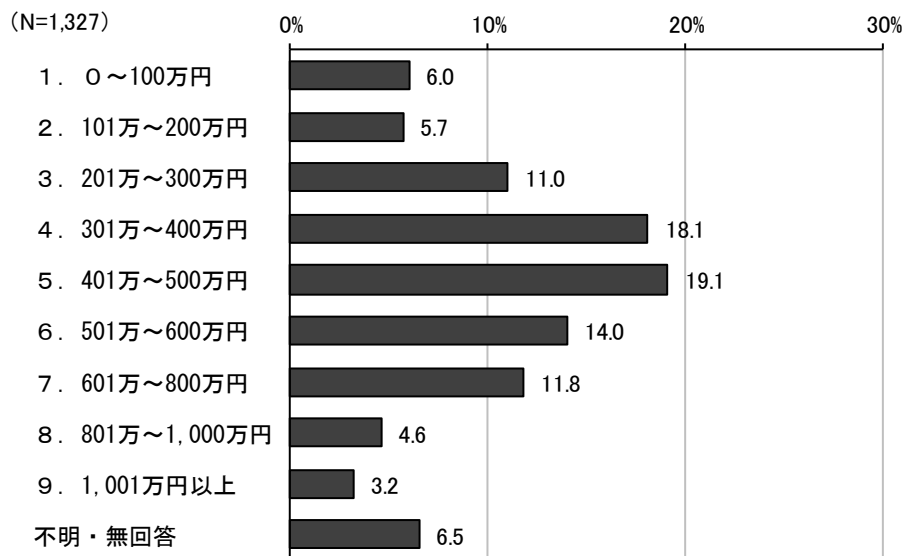
【就労形態】

(N=726)



ウ 世帯の可処分所得について（問5）

「401万～500万円」が最も高く、次いで「301万～400万円」, 「501万～600万円」の順で多く挙げられています。

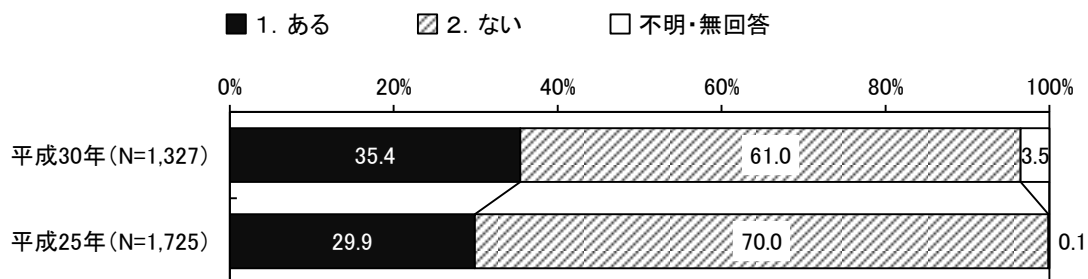


(2) 不妊について

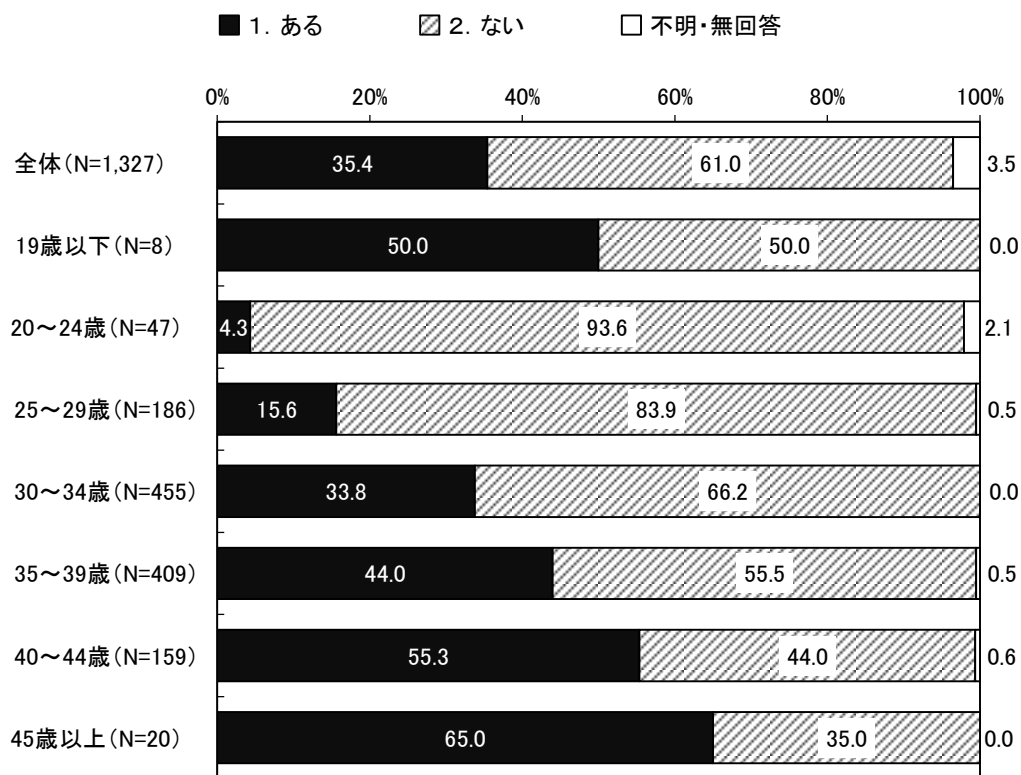
ア 不妊について悩んだことの有無（問 8(1)）

全体では「ない」が約6割だが、年齢が上がるほど「ある」の割合が大きくなり、40歳以上では「ある」が半数を超えます。

また、平成25年調査と比較すると「ある」の割合が大きくなっています。



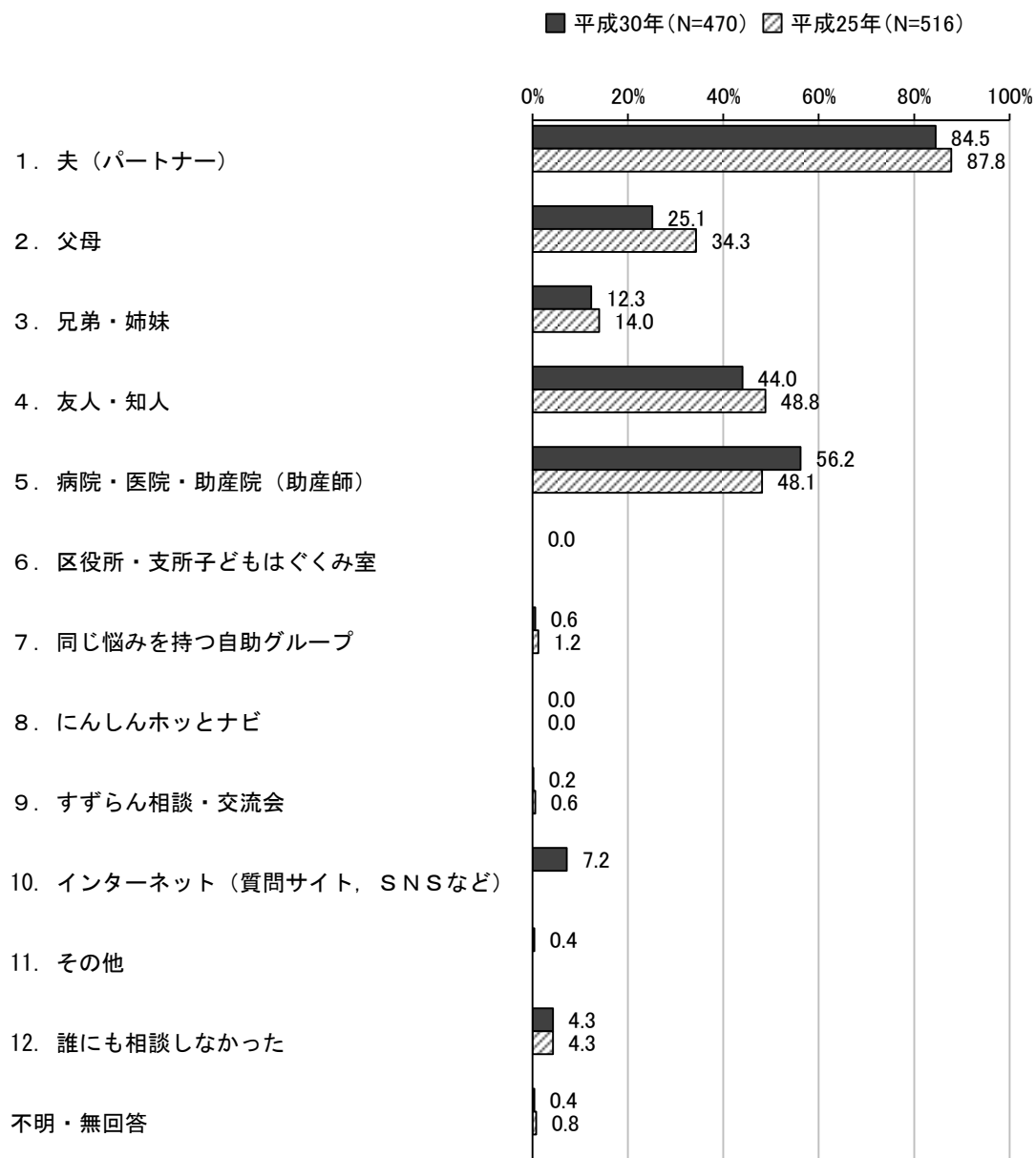
年齢別



※不明・無回答除く

イ 不妊についての相談先（問 8(2)）

「夫（パートナー）」が約8割と最も高く、次いで「病院・医院・助産院」の割合が高くなっています。



※「6. 区役所・支所子どもはぐくみ室」「10. インターネット（質問サイト，SNSなど）」「11. その他」は平成30年のみの選択肢

(3) 妊娠・出産・育児における支援について

ア 妊娠や出産・子育てに関して、妊娠中に知っておくと役に立つと思うこと（問11）

「出産までの流れ」が4割台半ばで最も高く、次いで「新生児のお世話の仕方」，「夫（パートナー）が育児の仕方や役割を学んでおくこと」，「出産や子育てに関する区役所やお金の手続き」が多く挙がっています。

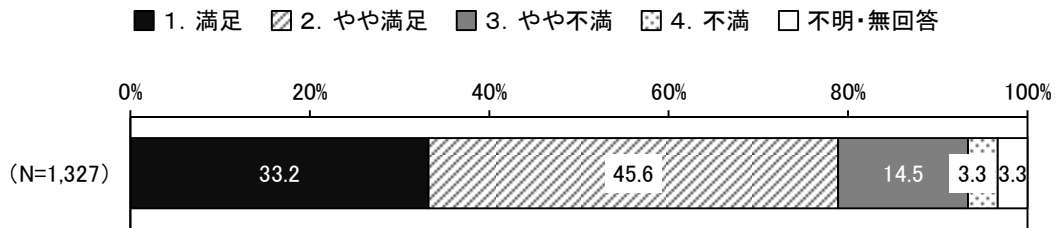
(N=1,327)



イ これまでの育児期間における家族や公的なサポートに対する満足度（問 12）

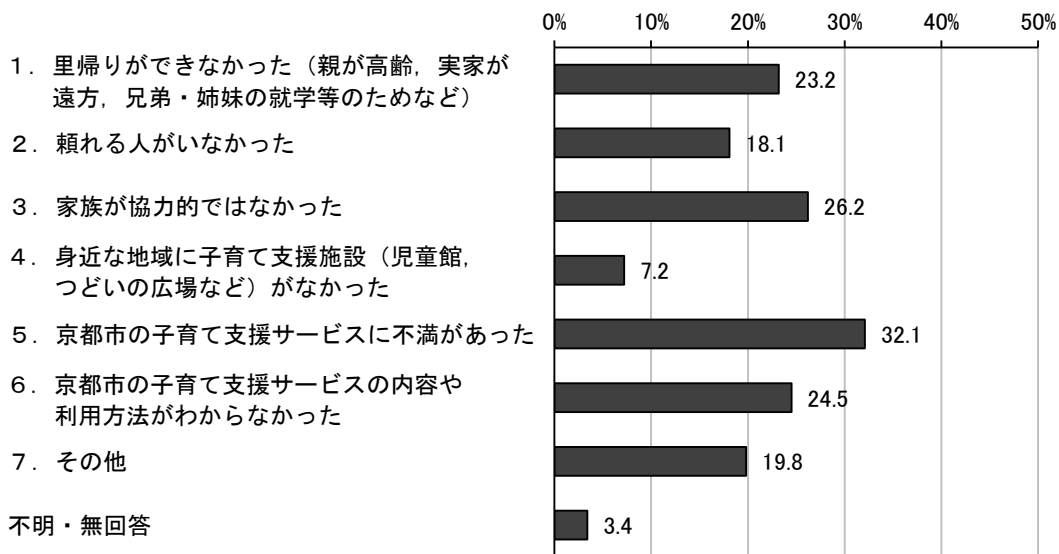
「満足」と「やや満足」の割合が約8割を占めています。「やや不満」と「不満」の理由については、「京都市の子育て支援サービスに不満があった」、「家族が協力的ではなかった」、「京都市の子育て支援サービスの内容や利用方法がわからなかった」が、それぞれ3割前後を占めています。

【これまでの育児期間における家族や公的なサポートについて、満足しているか】



【「やや不満」「不満」の理由】

(N=237)

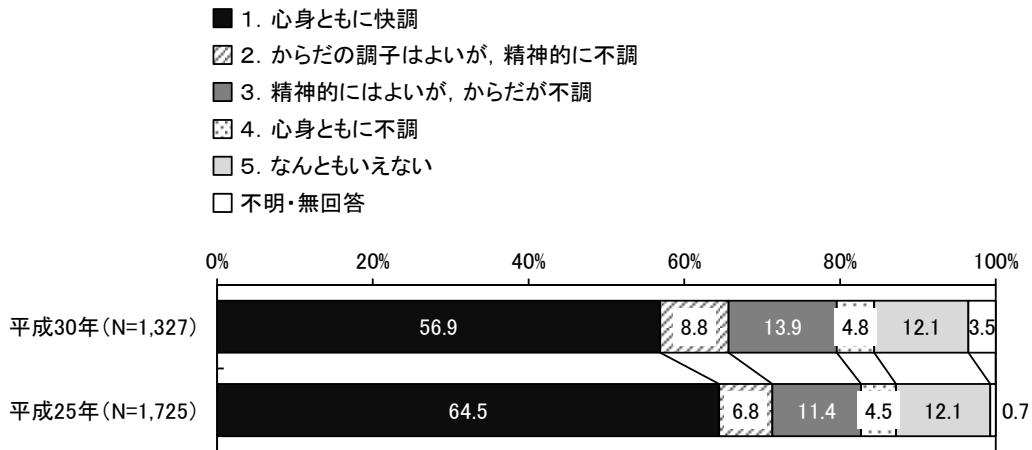


(4) 妊娠・出産・育児に関する悩みや不安に対する支援について

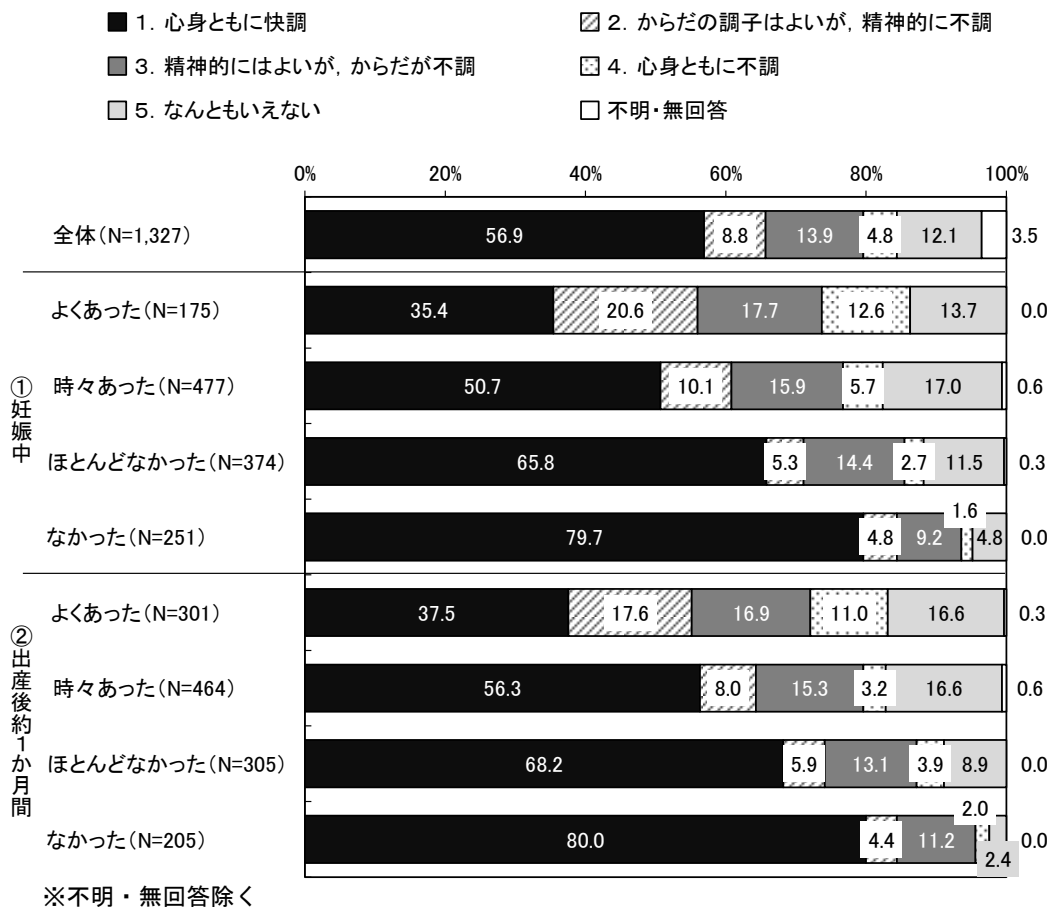
ア 現在の気持ちやからだの調子（問7）

「心身ともに快調」が5割半ばで最も高く、次いで「精神的にはよいが、からだの不調」，「なんともいえない」の順となっています。

妊娠中，出産後約1か月間ともに，落ち込みやイライラがあるほど，精神的な不調のみでなく，身体的不調を感じる割合が高くなっている。



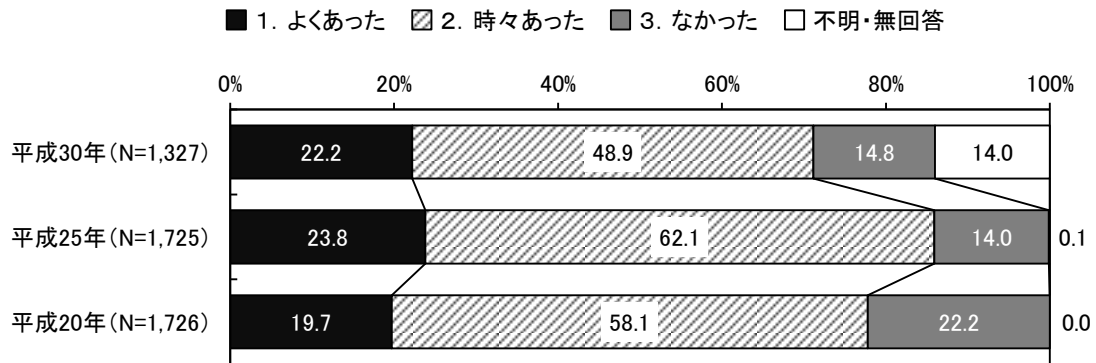
妊娠中・出産後約1か月間の落ち込みやイライラ感の頻度別



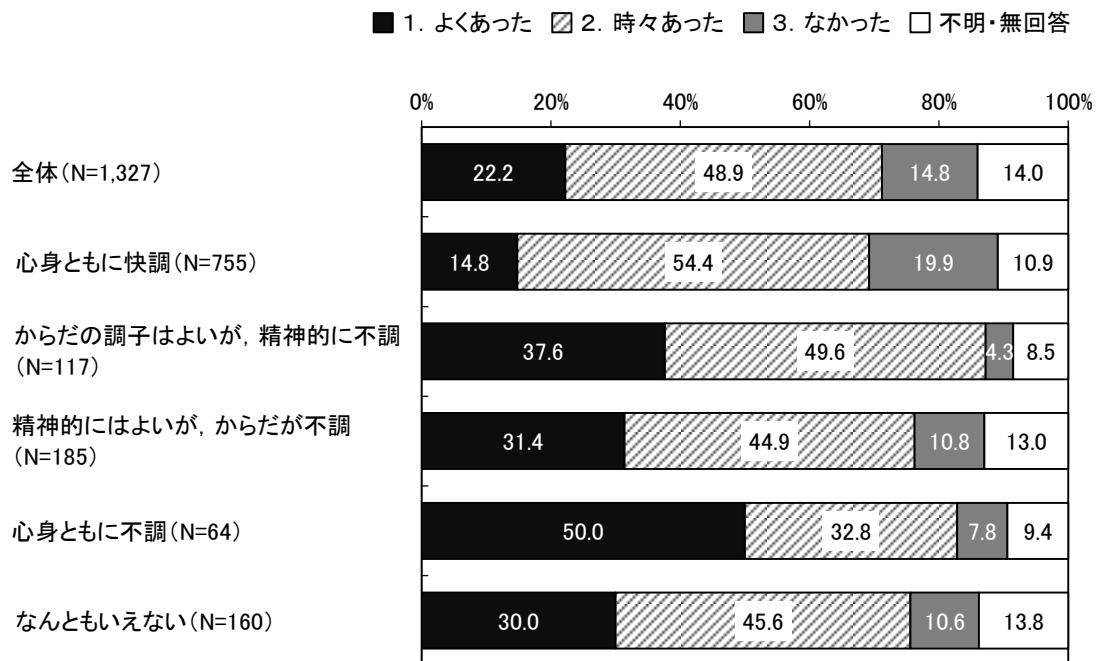
イ 妊娠中の不安や悩みの有無（問9(1)）

「よくあった」と「時々あった」の合計が約7割となっています。

現在の気持ちやからだの調子が「心身ともに不調」の場合は、妊娠中の不安や悩みの有無が「よくあった」が半数にのぼります。



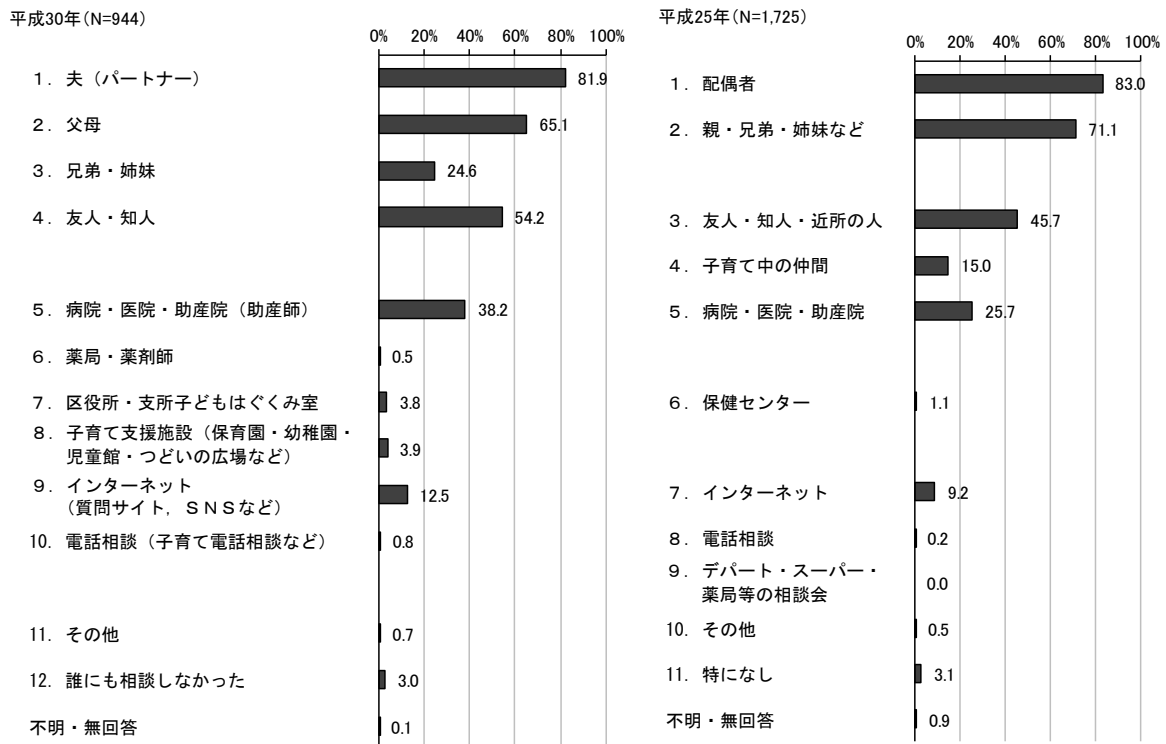
現在の心身の調子別



※不明・無回答除く

ウ 妊娠中の不安や悩みの相談先（問9(2)）

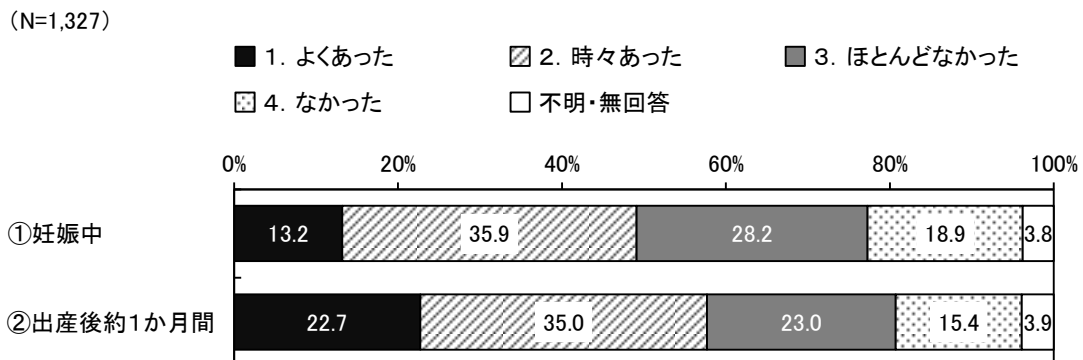
「夫（パートナー）」が約8割で最も多く、次いで「父母」及び「友人・知人」が半数を超えています。



※平成30年は、前段の設問で、ある回答をした方のみを対象とした限定設問のため、サンプル数が異なる

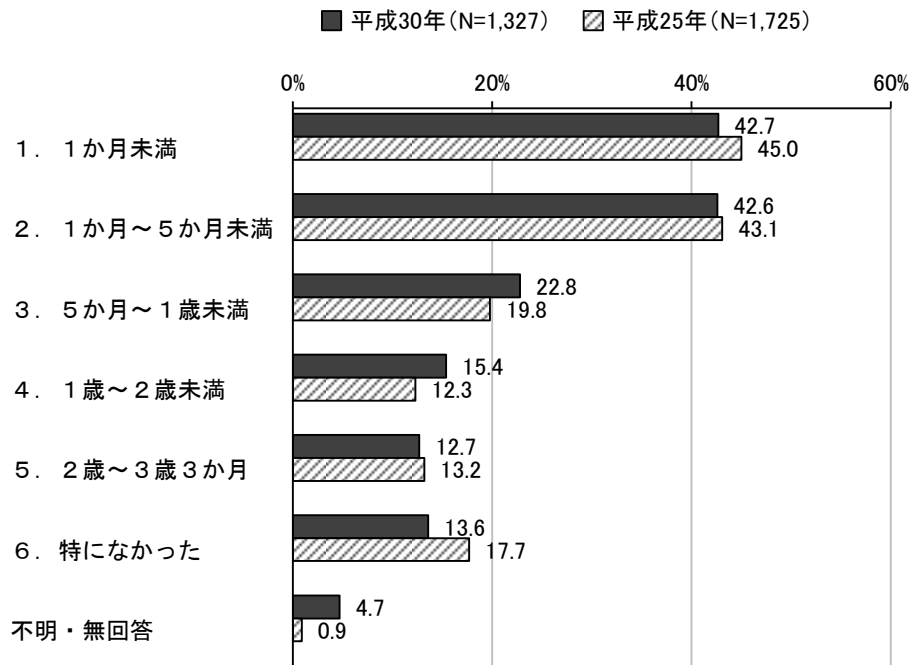
エ 妊娠中や出産後約1か月間の精神的な落ち込みやイライラ感（問10）

妊娠中，出産後約1か月間ともに，「よくあった」と「時々あった」の合計が約半数にのぼり，妊娠中と比較すると，出産後約1か月間の方が，割合が大きくなっています。



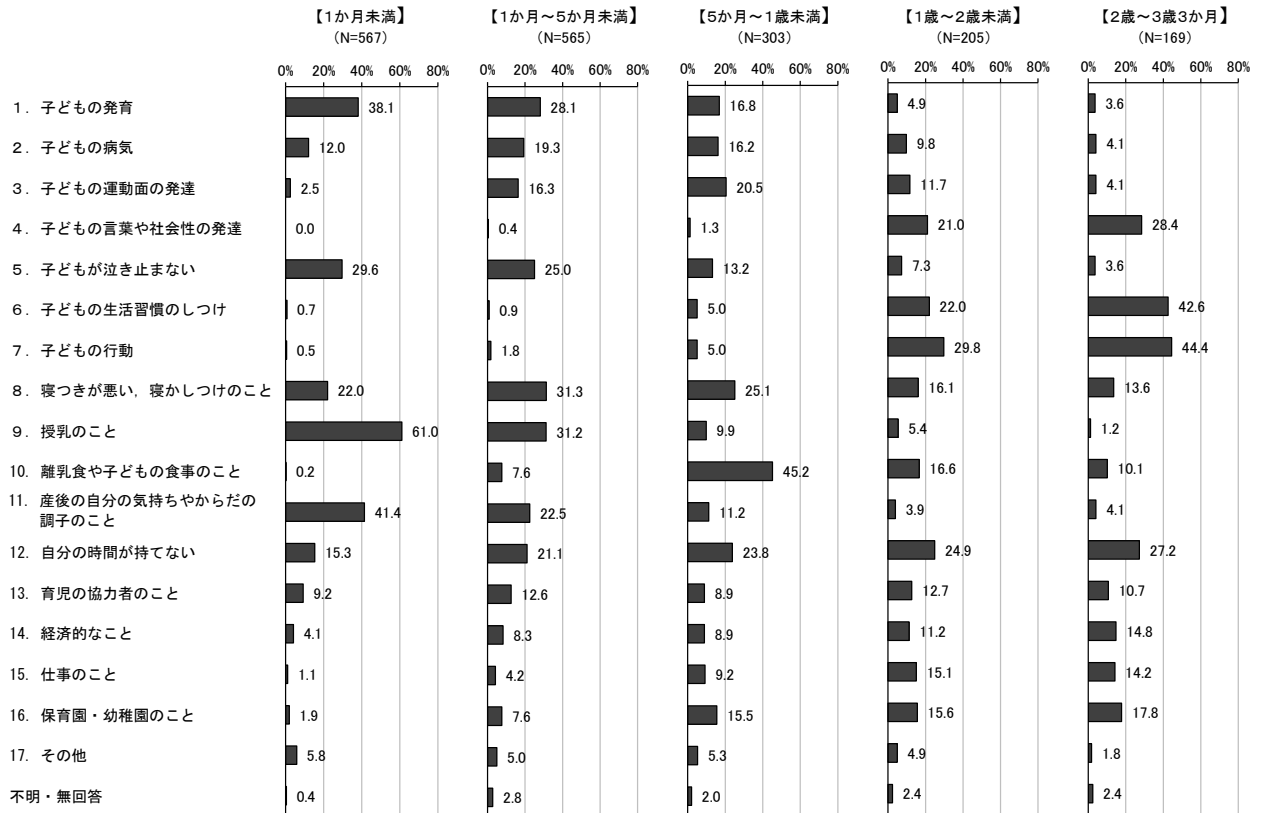
オ 育児期間中、特に悩みや不安が大きかった時期（問 13(1)）

「1か月未満」と「1か月～5か月未満」が、それぞれ約4割程度を占めており、5か月以降3歳3か月までは、子どもの年齢が上がるほど、徐々に割合が低くなっています。



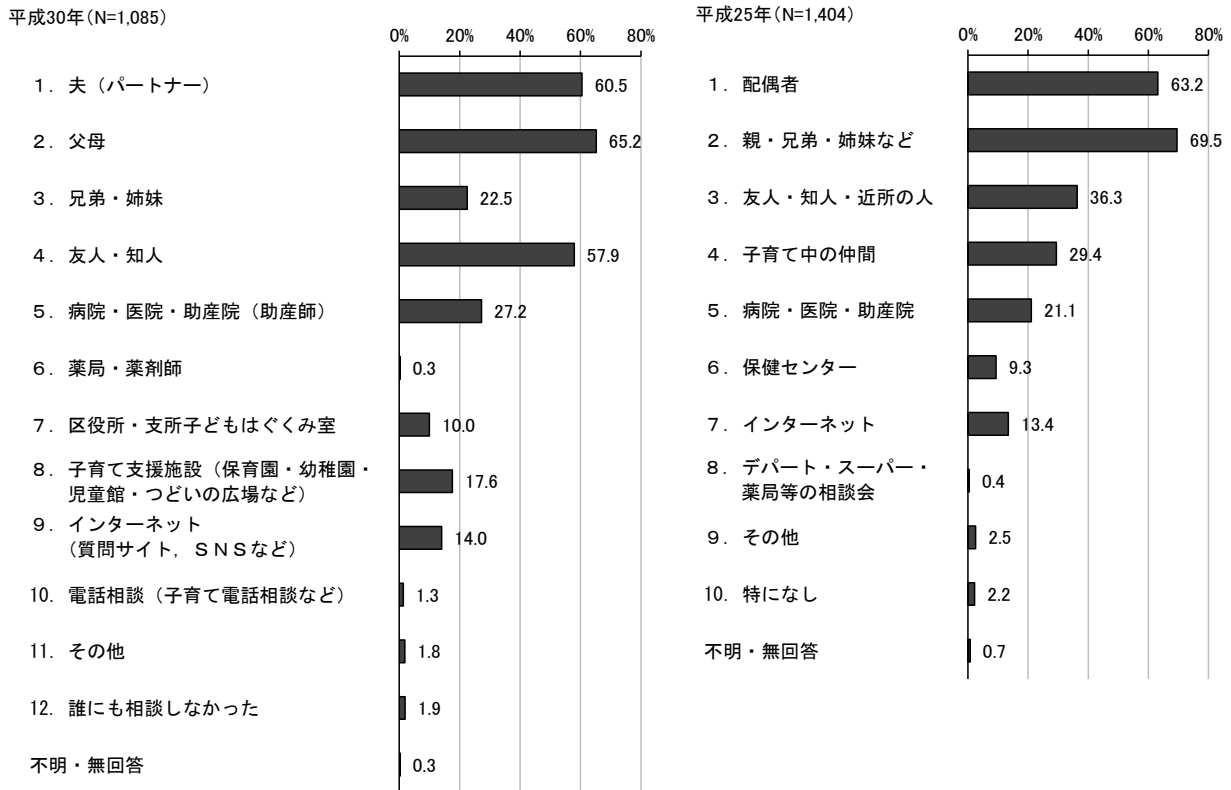
カ それぞれの時期の悩みや不安（問 13(2)）

子どもの月齢・年齢が「1か月未満」では「授乳のこと」，「1か月～5か月未満」では「寝つきが悪い，寝かしつけのこと」，「5か月～1歳未満」では「離乳食や子どもの食事のこと」，「1歳～2歳未満」と「2歳～3歳3か月」では「子どもの行動」が，それぞれ最も多く挙がっています。



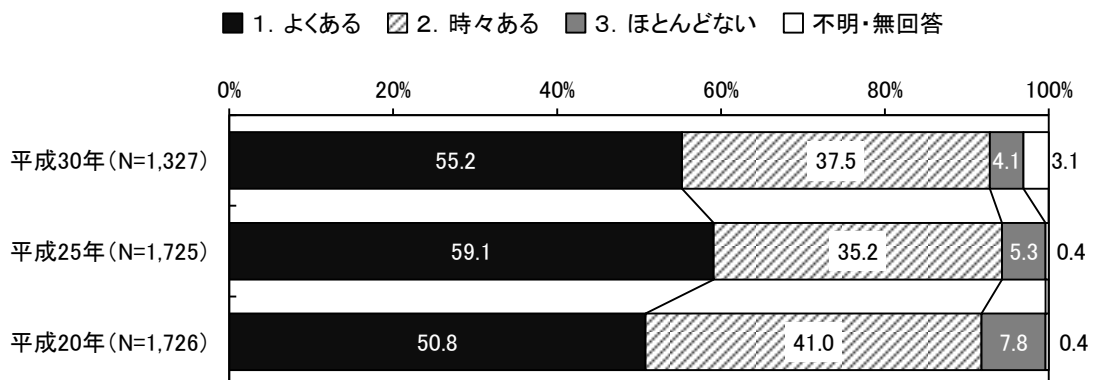
キ 育児の悩みや不安について、役に立った相談先（問 13(3)）

「父母」が6割台半ばと最も高く、次いで「夫（パートナー）」、「友人・知人」の順で多く挙げられています。



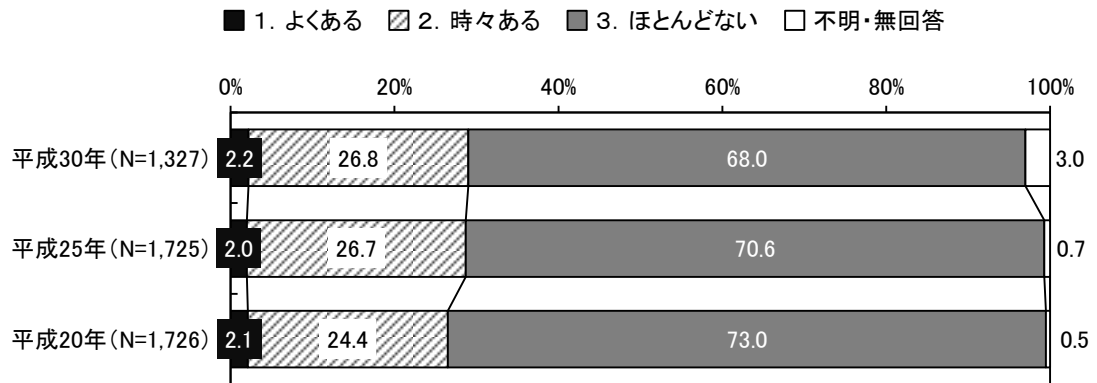
ク ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間（問 14）

「よくある」と「時々ある」の合計が9割を超えています。



ケ 子育てのしにくさ (問 15)

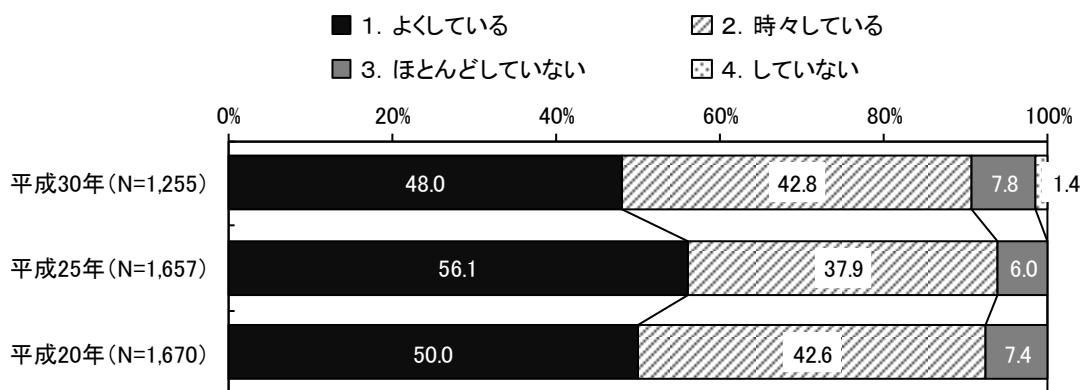
子どもを育てにくいと感じることがあるかについては、『ある(「よくある」, 「時々ある」の合計)』が約3割となっています。



(5) 夫（パートナー）の育児状況について

ア 夫（パートナー）は育児をしているか（問16）

「よくしている」と「時々している」の合計が約9割となっています。

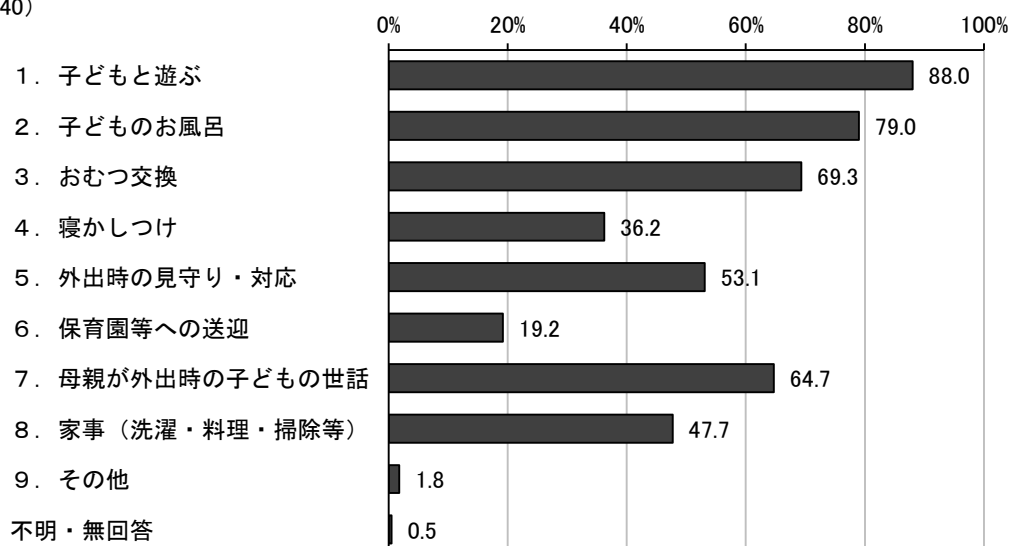


※「4. していない」は平成30年のみの選択肢

イ 普段、夫（パートナー）が行っている育児（問17）

「子どもと遊ぶ」が9割弱と最も多く挙がっており、次いで「子どものお風呂」，「おむつ交換」の順で多く挙げられています。

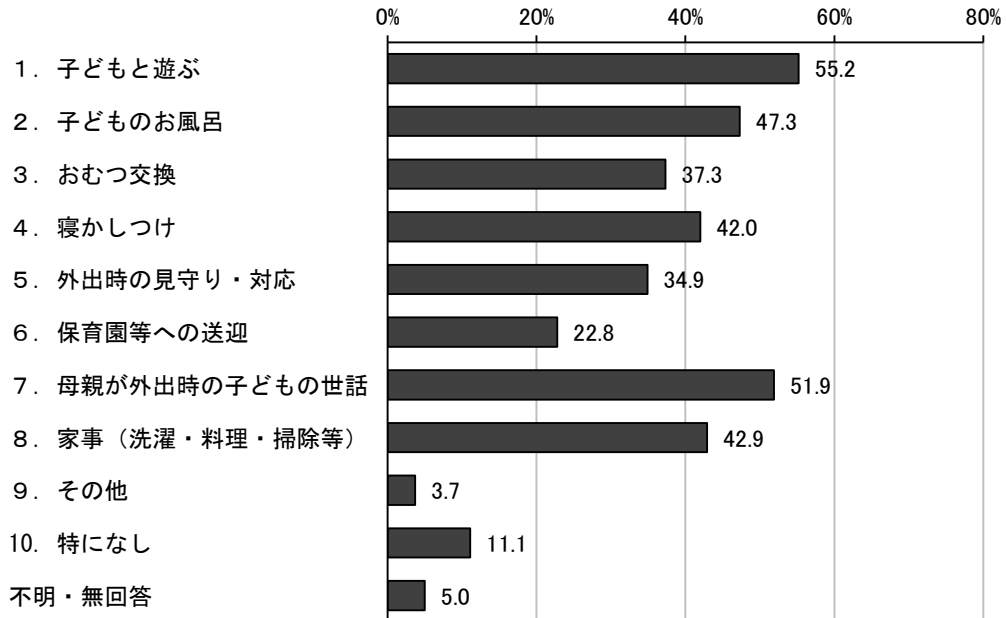
(N=1,140)



ウ 夫（パートナー）に行ってほしい育児（問 18）

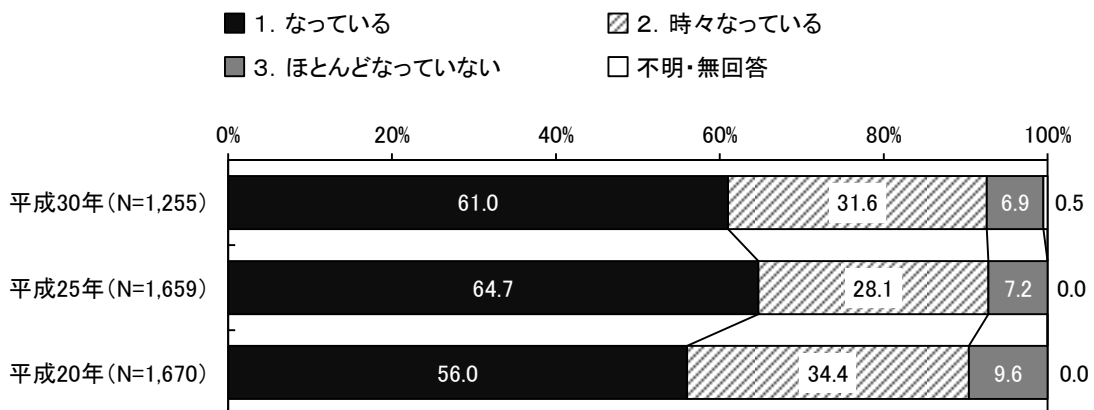
「子どもと遊ぶ」が5割台半ばと最も多く挙がっており、次いで「母親が外出時の子どもの世話」，「子どものお風呂」の順で多く挙げられています。

(N=1,255)



エ 夫（パートナー）は精神的な支えになっているか（問 19）

「なっている」，「時々なっている」の合計が9割を超えています。

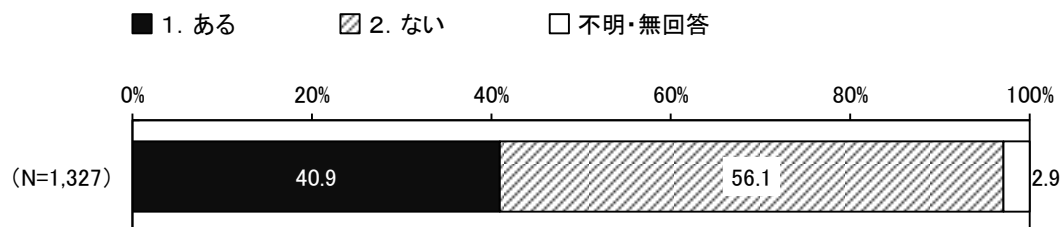


※平成30年は、問16「1」～「4」の回答者のみ

(6) 子どもの事故予防について

ア 子どもが家庭内で事故にあったことがあるか (問 21(1))

「ある」が約4割, 「ない」が6割弱となっています。

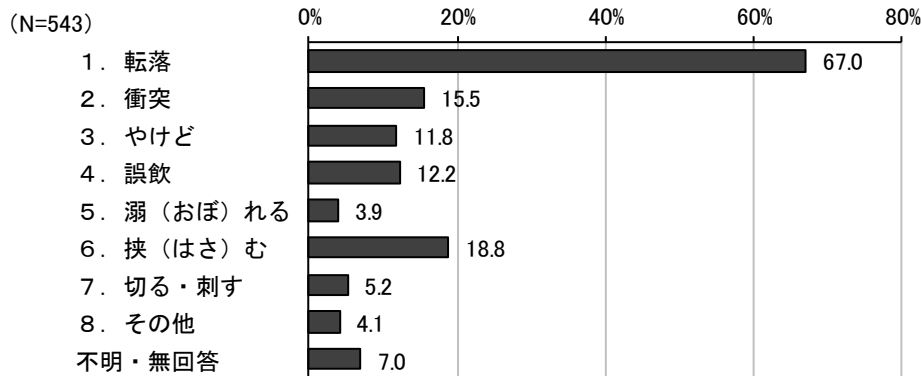


イ 家庭内であったことのある事故の内容と事故にあった年齢（問 21(2)）

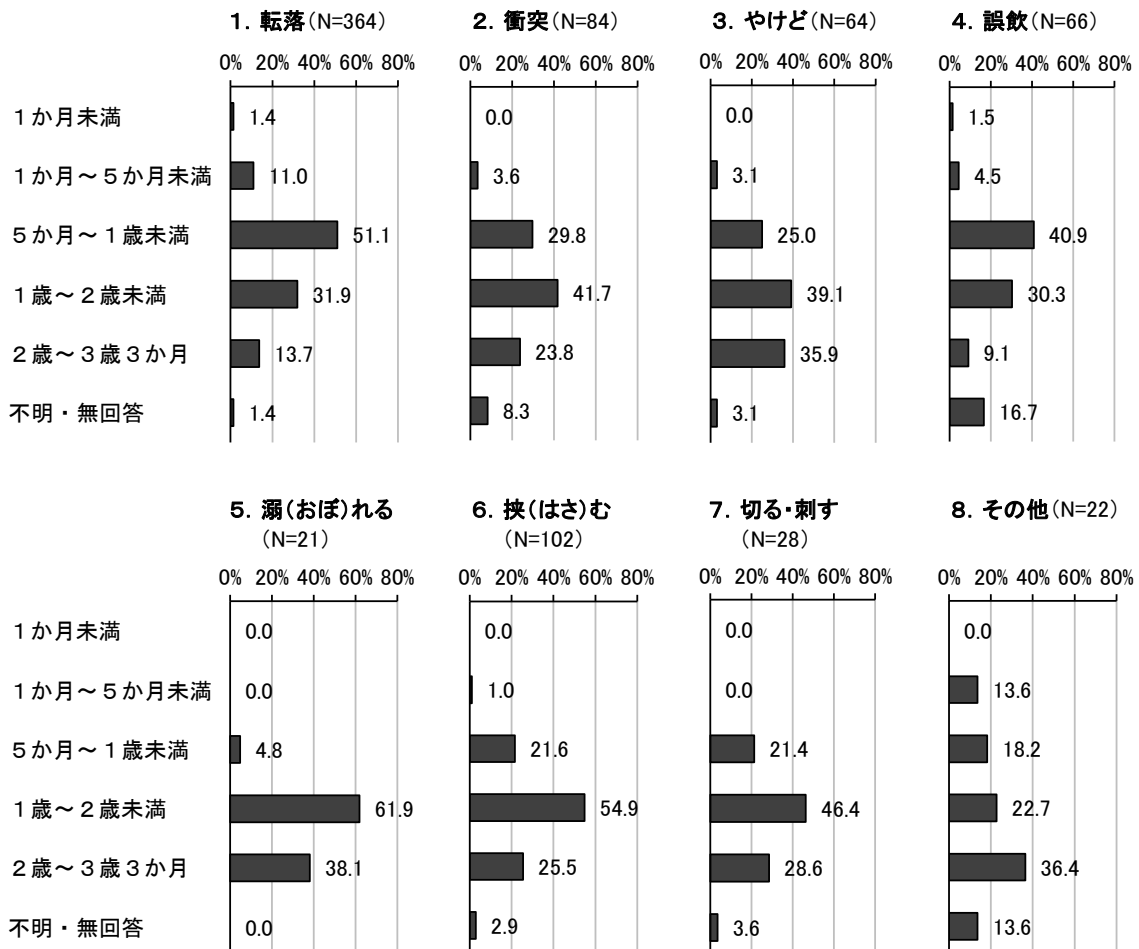
「転落」が7割弱と最も多く挙がっており、次いで「挟（はさ）む」，「衝突」の順で多く挙げられています。

また、事故にあった年齢については、「転落」，「誤飲」では、「5か月～1歳未満」が最も高く、「衝突」，「やけど」，「溺（おぼ）れる」，「挟（はさ）む」，「切る・刺す」では、「1歳～2歳未満」が最も多くなっています。

【事故の内容】



【事故にあった年齢】



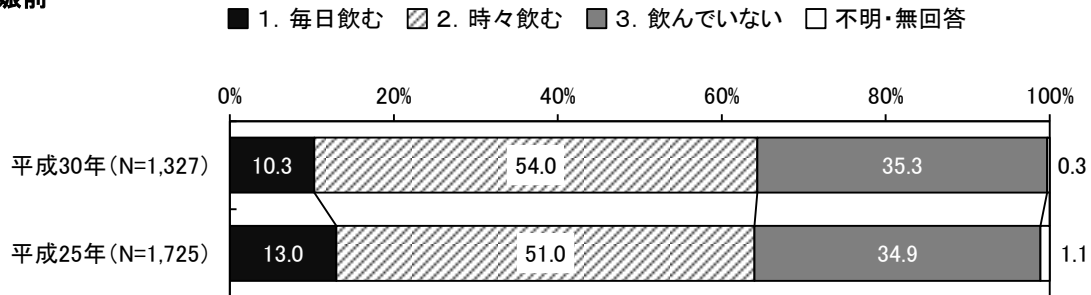
(7) 飲酒や喫煙について

ア 飲酒状況（問 24）

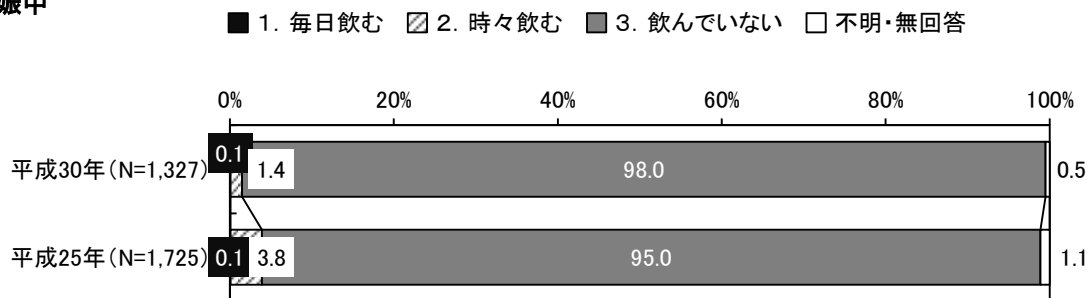
妊娠中では「飲んでいない」が最も高い。

出産後（現在）では、「毎日飲む」と「時々飲む」の合計が2割台半ばとなっています。

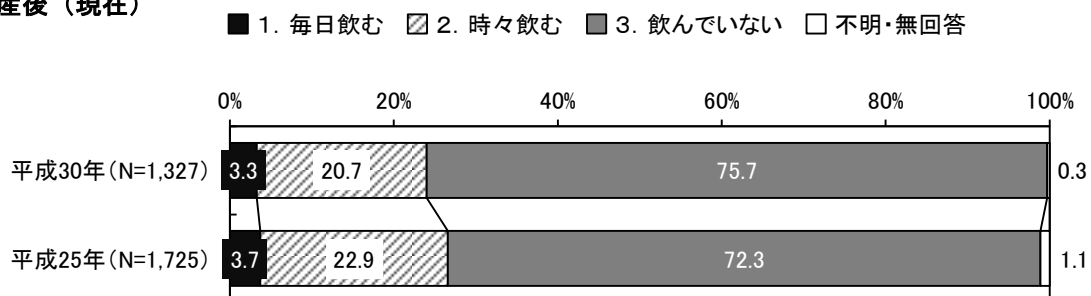
①妊娠前



②妊娠中



③出産後（現在）

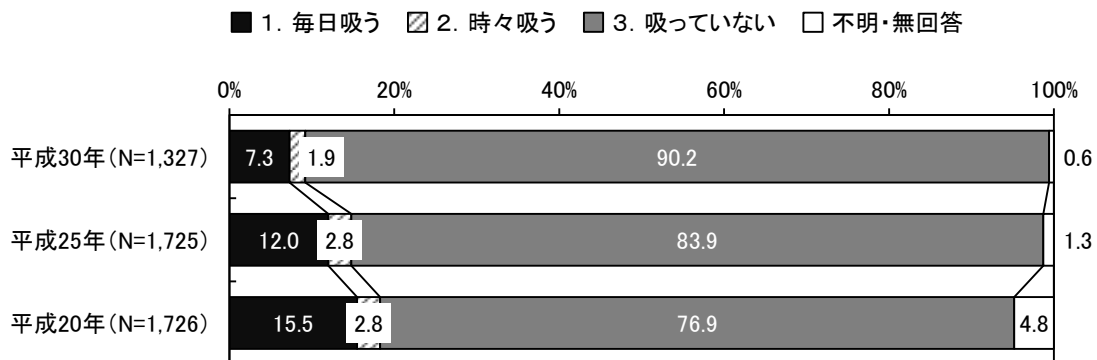


イ 喫煙状況

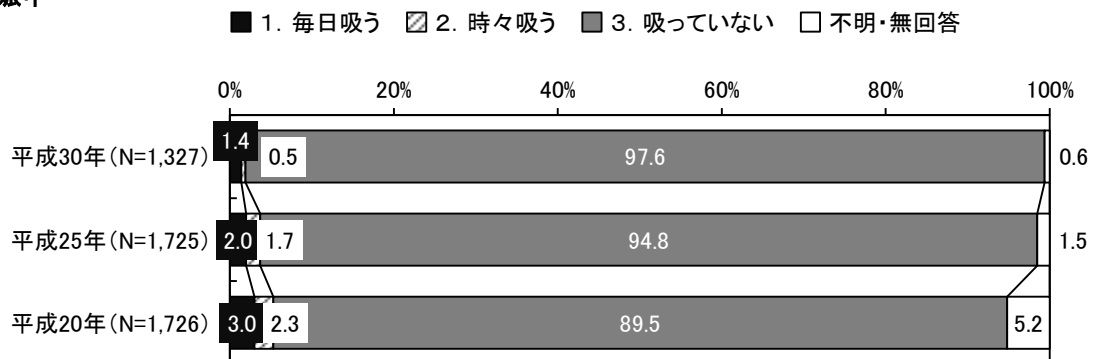
回答者の喫煙状況（問 25）では、妊娠前では「毎日吸う」と「時々吸う」の合計が約 1 割と、平成 25 年調査と比較すると減少しています。妊娠中及び出産後では、妊娠前と比較すると「毎日吸う」と「時々吸う」の割合がさらに低くなる傾向にあり、平成 25 年調査と比較しても減少しています。

また、夫（パートナー）の喫煙状況（問 26）についても、「吸う」が 3 割弱と、平成 25 年調査と比較すると減少しています。

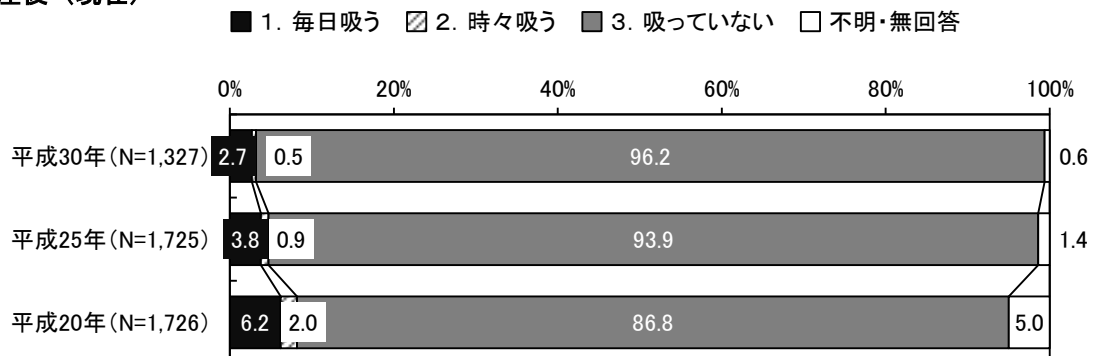
①妊娠前



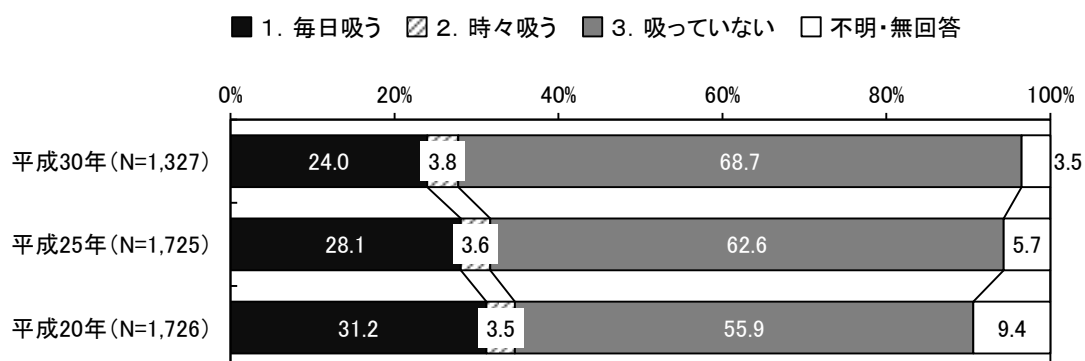
②妊娠中



③出産後（現在）



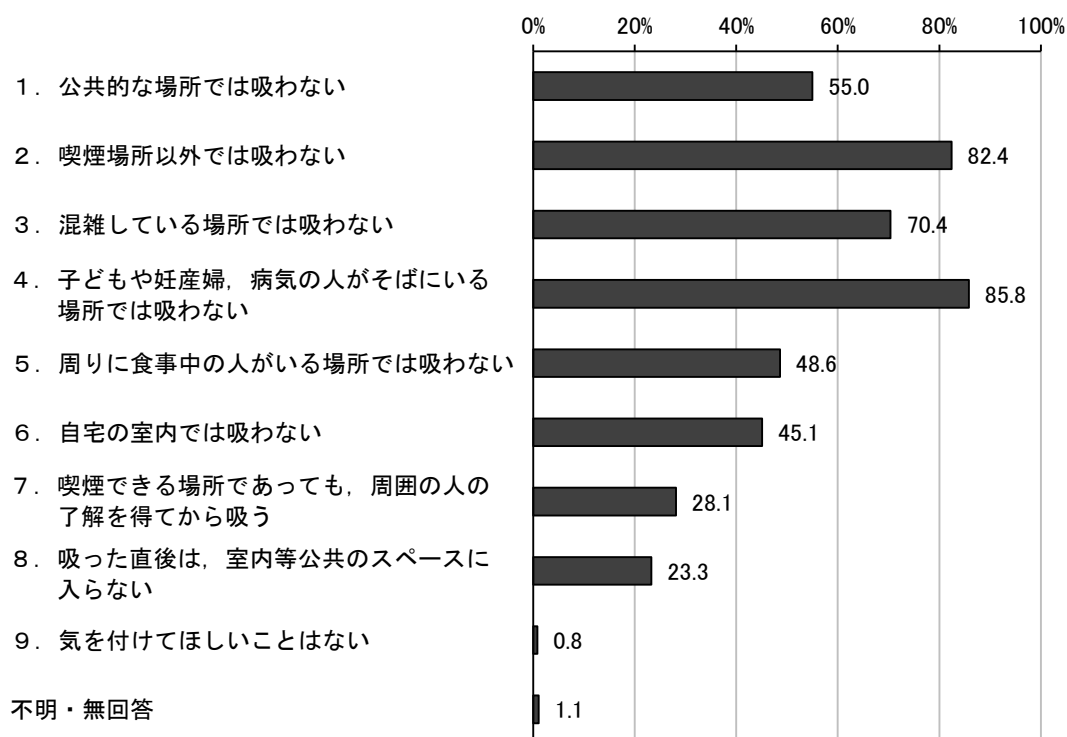
【夫（パートナー）の喫煙状況】



ウ 周囲の人が喫煙する時に気を付けてほしいこと（問 29）

「子どもや妊産婦，病気の人がそばにいる場所では吸わない」が8割を超えて最も高くなっています。

(N=1,327)

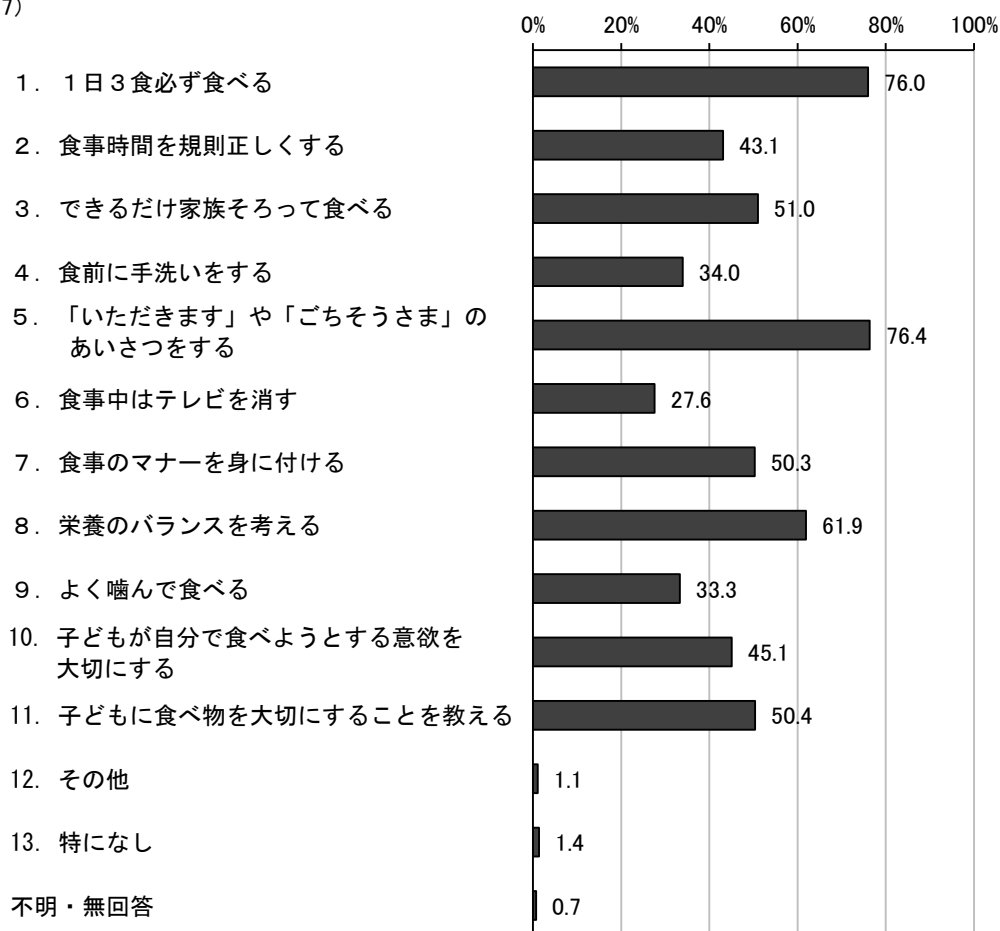


(8) 食生活やお口の健康について

ア 自身や家族の食生活で実践していることについて (問 30)

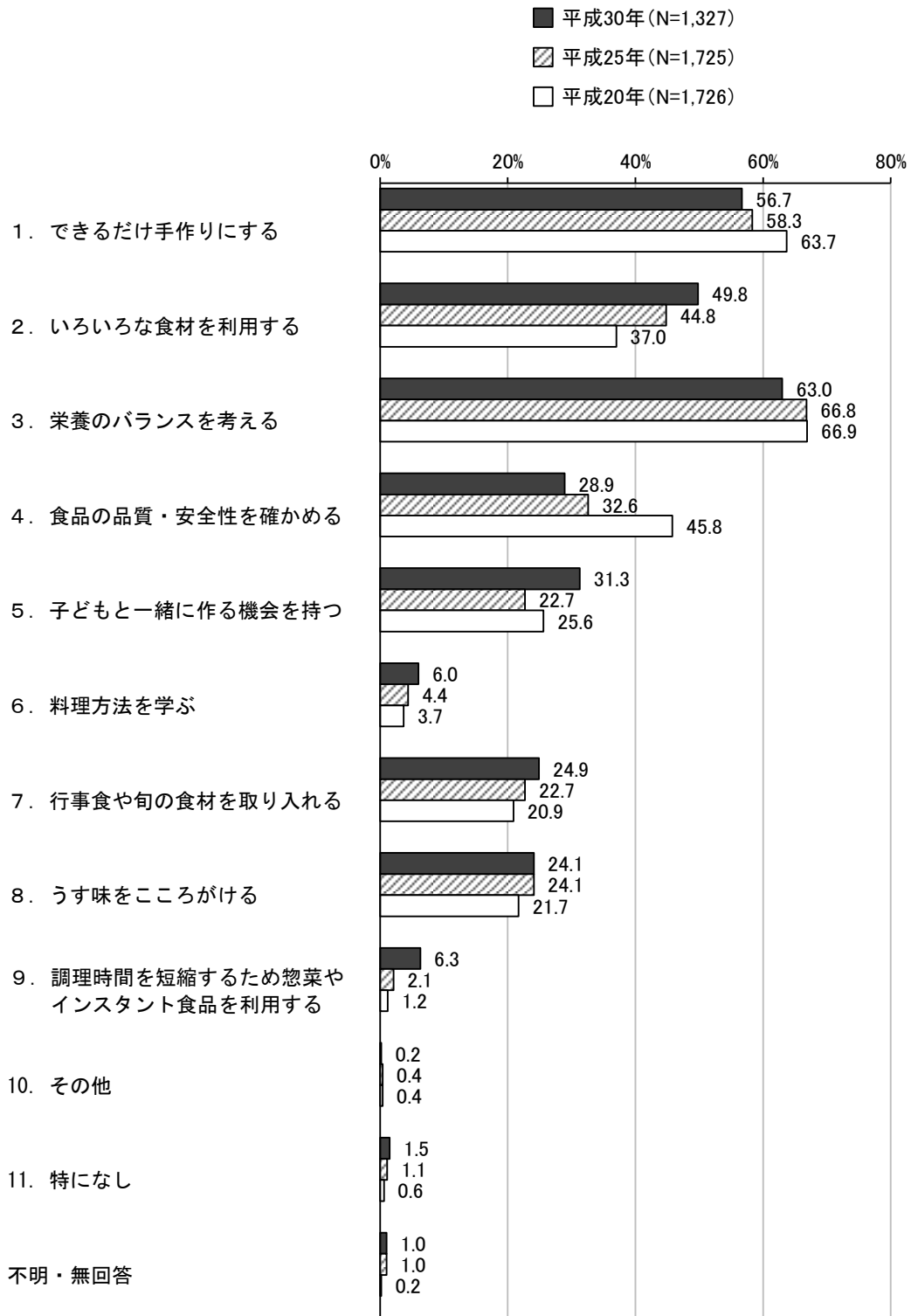
「いただきます」や「ごちそうさま」のあいさつをする」、「1日3食必ず食べる」が7割台半ばとなっており、また、「栄養のバランスを考える」も約6割となっています。

(N=1,327)



イ 家族の食事作りで、工夫している（しよう）と思うこと（問 31）

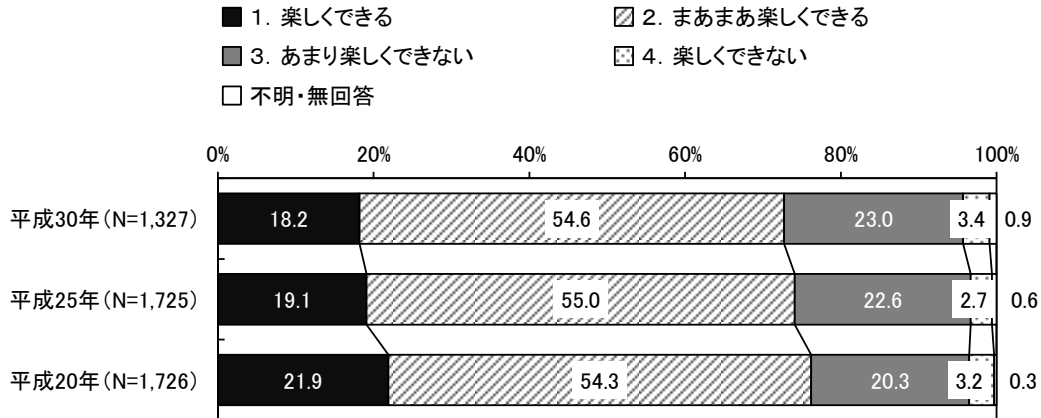
「栄養のバランスを考える」が6割を超えて最も多く挙がっており、次いで「できるだけ手作りにする」，「いろいろな食材を利用する」の順で多く挙げられています。



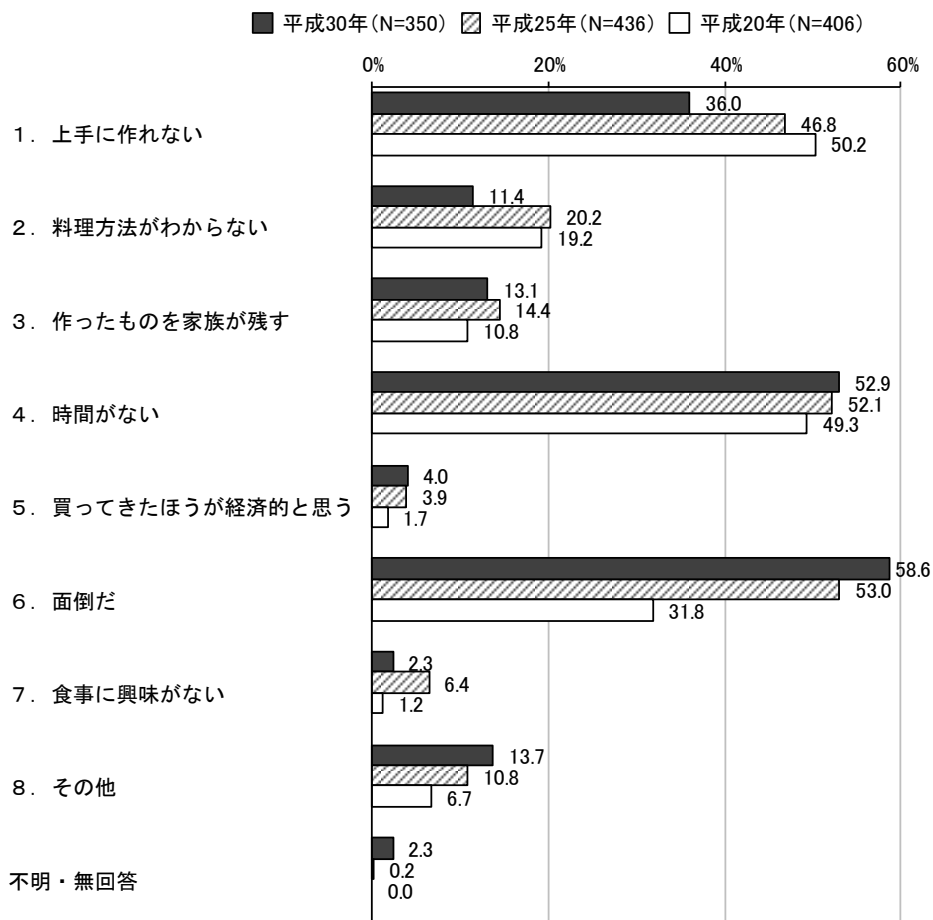
ウ 食事作りが楽しくできるか（問 32）

「楽しくできる」と「まあまあ楽しくできる」の合計が7割を超えています。
 「あまり楽しくできない」と「楽しくできない」の理由としては、「面倒だ」と「時間がない」の割合が高くなっています。

【食事作りが楽しくできるか】

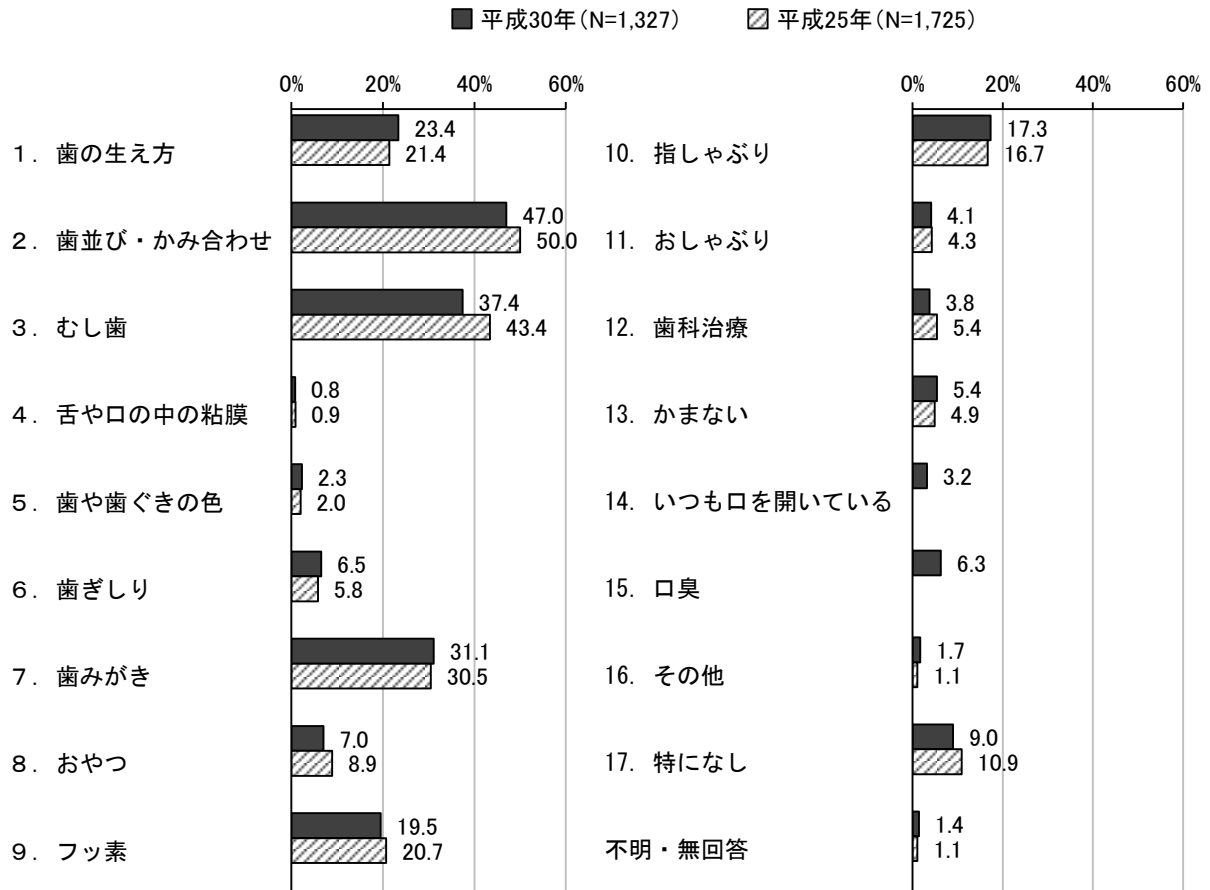


【「あまり楽しくできない」「楽しくできない」理由】



エ 子どもの歯と口について知りたいことや心配なこと（問36）

「歯並び・かみ合わせ」が最も高く、次いで「むし歯」「歯みがき」の順で多く挙げられています。



※「14. いつも口を開いている」「15. 口臭」は平成30年のみの選択肢

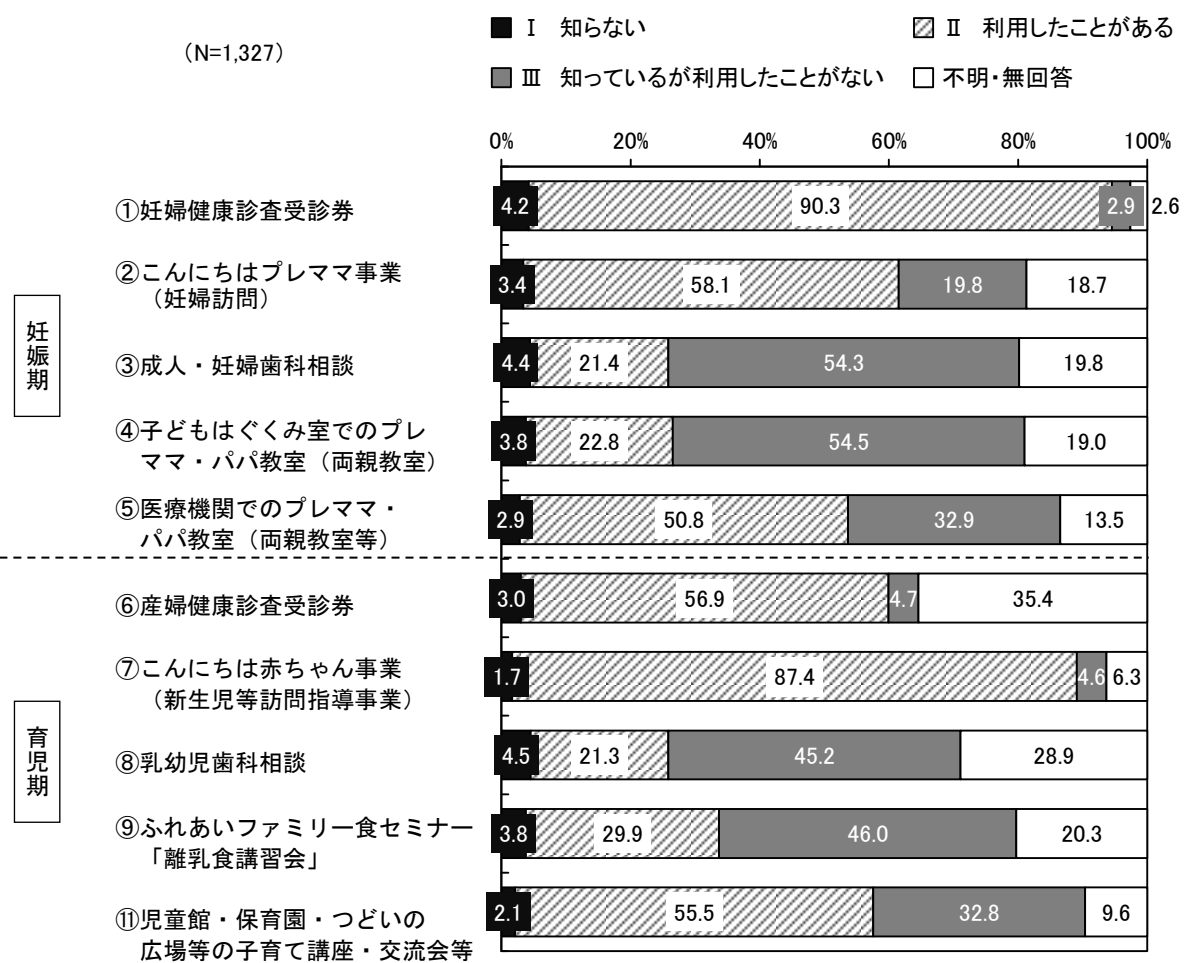
(9) 母子保健に関連するサービス等の利用状況について

ア サービス等の認知及び利用状況（問 38）

「利用したことがある」の割合が高い事業は、「妊婦健康診査受診券」と「こんにちは赤ちゃん事業（新生児等訪問指導事業）」であり、それぞれ約9割となっています。

「知っているが利用したことがない」の割合が高い事業は、「子どもはぐくみ室でのプレママ・パパ教室（両親教室）」と「成人・妊婦歯科相談」であり、それぞれ5割台半ばとなっています。

【認知及び利用状況（〔⑩乳幼児健康診査〕を除く）】



※〔⑥産婦健康診査受診券〕は平成29年4月1日以降に出産された方が対象

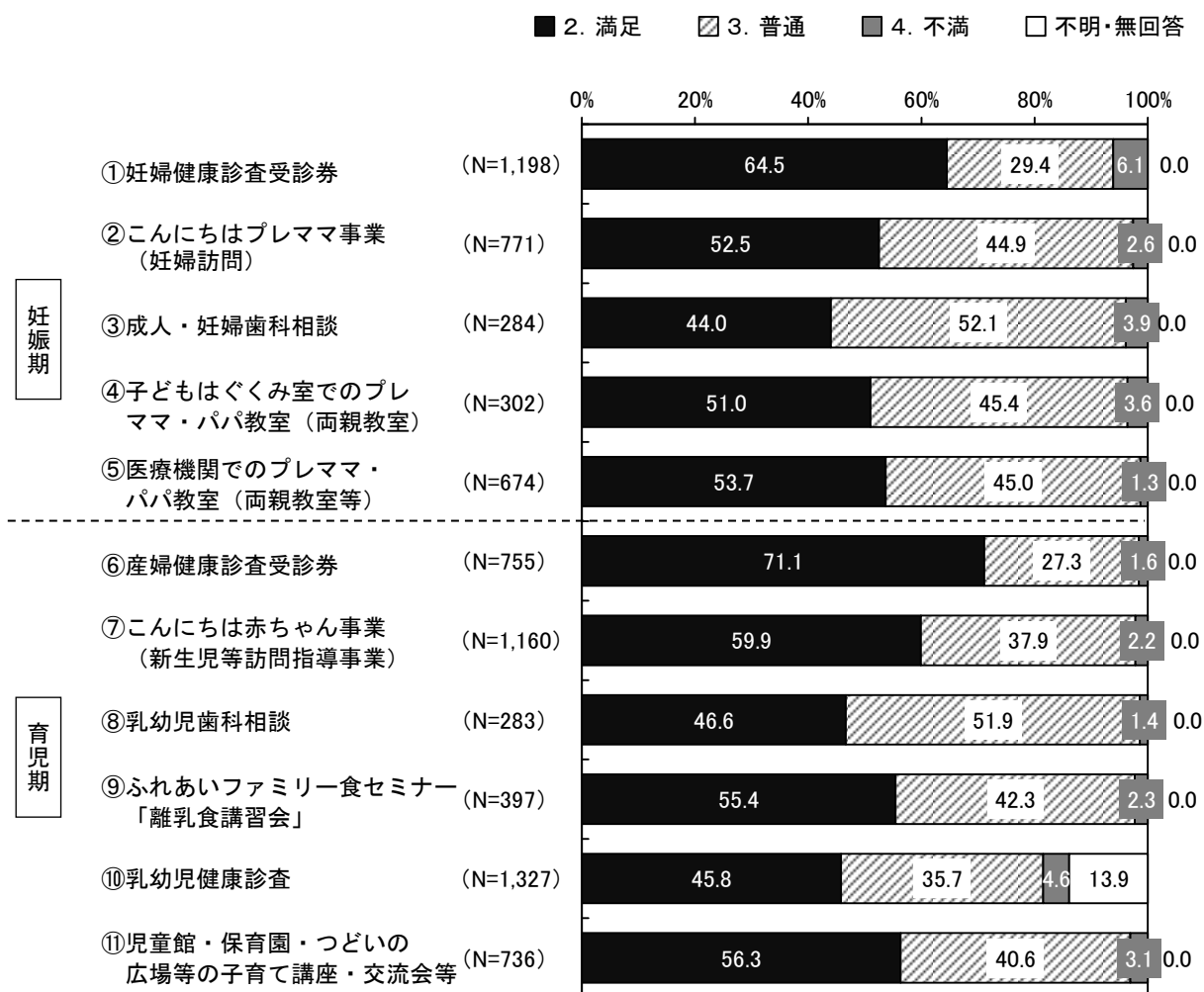
イ サービス等の満足度（問 38）

「満足」の割合が高い事業は、「妊婦健康診査受診券」と「産婦健康診査受診券」であり、それぞれ7割前後となっています。

「普通」の割合が高い事業は、「成人・妊婦歯科相談」と「乳幼児歯科相談」であり、それぞれ約5割となっています。

「不満」は全てにおいて1割に満たません。

【利用したことがある方の満足度】



※ [⑥産婦健康診査受診券] は平成 29 年 4 月 1 日以降に出産された方が対象